

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市と周辺に見られる絶滅危惧植物

32. イシモチソウ（モウセンゴケ科モウセンゴケ属）

Drosera peltata Smith. var. *niponica* (Masam.) Ohwi

2015年6月

丘陵地やため池土手の栄養分の乏しいやや湿ったところに生育する多年草です。地下に5～6mm程の球形の塊茎があります。春の出芽時は根生葉となり、その後直立した茎を出します。茎は高さ10～30cmで無毛、上部で多少分岐します。茎葉は互生し、葉柄は長さ10～15mm、先に幅5mm程度の三日月形～盾形の葉を1枚付け、種小名はこの形からきています。葉は多くの腺毛があり小さな昆虫などを捕食吸収し、栄養分を補うための捕虫葉となります。花は5～6月に総状花序として出た後、初めは頂生し、成長とともに対葉生となり、2～10個の白色花をつけます。午前10時ごろ開いて午後に閉じる特性があります。花弁は広倒卵形で長さ6～8mmです。蒴果はやや球形で長さ2.5mm、種子は広楕円形で長さ約0.4mmで両端はやや尖ります。

兵庫県版レッドデータブック 2010 の Cランク、近畿版レッドデータブック 2001 のCランク、日本の絶滅のおそれのある野生生物第4次レッドリストはNTランクに位置する希少種ですが、当地域には比較的個体数の多い種類です。分布は本州（関東地方以西）、四国、九州、台湾、中国で、基本種はオーストラリアやニュージーランドに生育しています。イシモチソウのように塊茎を持つモウセンゴケ類はオーストラリア西南部に多くの種類が見られます。



イシモチソウ



花の拡大